

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	馬込ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローグ
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。2025年度はことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目をします。

<テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人英語講師が週2日来園し、レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、保育者も園児も英語は身近なことばとして存在しています。2024年度は子どもたちが同じ絵本、同じメロディの歌を日本語と英語で体験、体感することで、ことばに対する興味が広がりました。2025年度は子どもたちがさらに主体性を持って活動するように、ことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目しようと考えました。

2. 活動スケジュール

【問いかけ】保育者は、動物の鳴き声について子どもたちに問いかけました。
「この動物はどんなふうに鳴くか知っている？」
「動物園ではどんな声で鳴いていたか覚えている？」
「リゼイン先生は英語の先生だけど、英語でも同じ鳴き声なのかな？すると子どもたちは、
「リゼイン先生はね、英語だけを話すんだよ。」と話していました。

【流れ】英語講師が来園する日には、動物の鳴き声を取り入れた英語の歌を歌ったり、動物以外の擬音語・擬態語（オノマトペ）が登場する英語の絵本を読み聞かせたりしています。その際は、保育者も子どもたちと一緒に活動に加わります。また、自由遊びの時間には、保育者が日本語で動物の鳴き声を含む歌を歌い、英語講師も子どもたちとともに楽しみます。さらに、英語活動で使用している絵カードも活用し、みんなでオノマトペ遊びも行います。

【探究活動の実践と記録】英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者とともに英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当しました。

*図鑑であそぼう：3歳児クラス*歌：3歳児クラス*カード遊び：3歳児クラス

【振り返りや共有】月末には、英語講師と職員が集まり、探究活動の経過や子どもたちの姿について意見交換を行っています。その中で次月のテーマや問いを組み立て、保育環境の整え方や活動の流れ、実施時期などを具体的に検討します。また、保育者間でも職員会議を通して実践を見直し、それぞれの気づきや工夫を共有しながら、保育の質の向上を図っています。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】 英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

【素材】

* 同じメロディの日本語と英語の歌：「ゆかいな牧場」と"Old McDonald had a farm"

* 絵カード：動物、乗り物、オノマトペ絵カード

* どうぶつ図鑑：本当の動物の鳴き声とは？



4 -①. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」を保育者が日本語で歌う。英語講師も同席して一緒に聞く。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・初めて聞く子どももいたため、歌詞を聞いたり、曲のリズムを聞いたりそれぞれの子どもの表情が見られた。保育者がうたい始めると楽しく明るいリズムのため身体が動きはじめ口ずさむ子が増えていた。何度か繰り返しの歌詞があるため徐々に自分達で手振りをつけ始めていた。

4 -①. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」と同じメロディ"Old McDonald"を英語で歌う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・英語講師の真似をして「イーアイイーアイオー」と歌ったり、ジェスチャーをしたりしていた。アヒルの鳴き声やぶたの鳴き声は聞き馴染みがあり、真似しやすい様子が見られた。ニワトリの鳴き声（英語）は聞き慣れていないようで、英語講師の英語の鳴き声に耳を傾ける子が多くいた。また、日本語・英語での鳴き声の違いの不思議さに首をかしげる仕草もあった。



5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】2024年度からの続きで、同じメロディを日本語と英語で歌ってみることで、違う部分や、同じ部分を子どもたちが気づくようになってきた。動物の鳴き声を日本語と英語で比較してみたり、英語と日本語の違いに興味を持つ場面が増えてきた。・日本語の「ゆかいな牧場」は覚えはじめもあり、今後も動物の鳴き声や動きが自ら表現できるように繰り返しこの曲にふれていく機会を作っていく。（子ども達が楽しくリズムに乗りやすい事も多いため）英語の歌の方は動物のカードを見ながら、歌をうたっていたので次はどの動物・鶏などわかりやすかったように感じたので、視覚的な表現も加えることも重要だと感じた。

【次回への問い】英語でも日本語でもなく、実際の動物のなきごえを聞いたときに子どもはどのように反応するのだろうか？

4-②. 探究活動の実践（日本語でも英語でもなく、本当の動物のなきごえは？）

<活動の内容>②動物のなきごえ図鑑を使って本当の動物のなきごえを皆で聴く。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

動物のフラッシュカードでは、英語講師が動物のジェスチャーをしたり鳴き声を真似するとクラスみんなで大きな声で発する子が多くいた。また、ジェスチャーが違っていると「こうだよ」と教える仕草もあった。鳴き声図鑑の動物を指し講師が聞くと積極的に手を挙げ、当ててもらおうと嬉しそうに鳴き声のボタンを押していた。



5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】何をするにも興味を示し、子ども達が興味がある英語、動物、鳴き声などの保育材料をクラスに置き、いつでも見れるようにしておきたいと思う。

【次回への問い】英語絵カードを違う種類にすることで、動物の鳴き声ではなく、また違うオノマトペに子どもたちはどのように気づき反応するだろうか？

4-③. 探究活動の実践（乗り物の擬音語）

<活動の内容>③英語レッスン中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使い、擬音語を探る

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

乗り物はみんなが良く知っているものだったので、英語講師の発音に合わせて単語「Car」「Train」「Bus」「Helicopter」は上手に発音できていた。

また、乗り物を表現する擬音語では英語と日本語の違いが少しあり戸惑う場面もあったが、行っていくうちに理解も早く英語講師の真似をしながら楽しく行う姿があった。



5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】最近話した言葉に対しての意味を知りたがったり、疑問をもったりと言葉・会話をする楽しさに興味があるようなので、言葉あそびなどを多く取り入れ語彙を多く習得できればと思う。

【次回への問い】英語講師、保育者も含めて子どもたちとオノマトペの絵カード遊びを通して子どもたちは擬音語や擬態語にどのように興味を深めていくのだろうか。

4-④. 探究活動の実践（オノマトペ絵カード）

<活動の内容>④保育者、英語講師と一緒に絵カード遊びをする：絵を見て子どもたちが擬音語、擬態語を言う。英語講師も英語で擬音語や擬態語を言う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「にこにこ」の英語の擬音語・擬態語「hehe hehe」は意味も分かり楽しむ様子が見られた。反対に「がたがた」「thump thump」「かさかさ」「crinkie」は英語の擬音語よりジェスチャーで意味が分かったのか英語講師と一緒にに行っていた。日本語と英語で似ている擬音語だと分かりやすいが違う擬音語だと「え！」という反応子がいた。「すべすべ」「smoooth」は難しいと感じた。



5-④. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】いろいろな言葉を知ることの一つに擬音語・擬態語から入るのも良いと思った。言葉遊びを増やしていきたい。

【次回への問い】子どもたちはことばには日本語も英語もあり、またそれ以外に様子を表す擬態語や擬音語もあって、しかもそれらにも日本語や英語特有の音があることに気づいたかもしれない。また園には日本語や英語以外のことばを話す友だちもいることから、日本語英語以外の世界についても興味を持ち探究活動が広げられるのではないか。